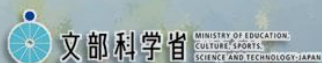


# 日本の気候変動2020

— 大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書 —

文部科学省 気象庁



日本の気候変動の「これまで」と「これから」をまとめた一冊

自治体の緩和・適応策や影響評価にご利用いただけるよう

日本とその周辺の

温室効果ガス、気温、降水量、海面水位、水温 などの

これまでの観測事実 (現在どうなっているのか)

将来の予測

(この先どうなるのか)

の最新の知見を解説

2つのシナリオに基づく  
将来予測結果の対比が可能に

**2°C上昇シナリオ (RCP2.6)**

(パリ協定の2°C目標が達成された場合)

**4°C上昇シナリオ (RCP8.5)**

(追加的な緩和策を行わない場合)

○気象庁HPでご覧いただけます  
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

日本の気候変動2020

検索

# これまでの観測事実

## 日本の近年の気候は...

年平均気温が100年あたり **約1.24℃** 上昇



猛暑日や熱帯夜は増加し、  
冬日は減少する傾向がみられる。

海面水温が100年あたり **約1.14℃** 上昇



温まりやすい陸地に近いことや暖流の影響で、  
世界平均よりも上昇率が大い。

降雪・積雪は減少



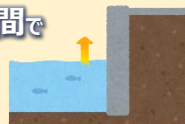
年最深積雪に  
減少傾向がみられる。



雨の降り方が極端化

大雨、短時間強雨の頻度は増加し  
雨の降る日は減っている。

沿岸の海面水位が100年間で  
**約0.16 m** 上昇



オホーツク海の  
年最大海氷面積は減少



オホーツク海沿岸では1980年以降  
降水量が著しく減少。



台風の発生数や強度の変化には  
はっきりした傾向はみられない

日本南方や沖縄周辺においても  
世界平均と同程度の速度で  
海洋酸性化が進行



## 将来の予測

### 20世紀末と比べ、21世紀末の日本は...

年平均気温が **約1.4℃ / 約4.5℃** 上昇



猛暑日や熱帯夜はますます増加し、  
冬日は減少する。

降雪・積雪は減少

雪ではなく雨が降る。  
ただし大雪のリスクが  
低下するとは限らない。



激しい雨が増える

日降水量の年最大値は  
**約12% (約15 mm) / 約27% (約33 mm)** 増加  
50 mm/h以上の雨の頻度は **約1.6倍 / 約2.3倍** に増加

海面水温が **約1.14℃ / 約3.58℃** 上昇



温まりやすい陸地に近いことや暖流の影響で、  
予測される上昇量は世界平均よりも大きい。

沿岸の海面水位が  
**約0.39 m / 約0.71 m** 上昇



3月のオホーツク海海氷面積は  
**約28% / 約70%** 減少



【参考】4℃上昇シナリオ (RCP8.5) では、  
21世紀半ばには夏季に北極海の海水が  
ほとんど融解すると予測されている。

強い台風の割合が増加  
台風に伴う雨と風は強まる



日本南方や沖縄周辺においても  
世界平均と同程度の速度で  
海洋酸性化がさらに進行



※ 黄色の数字は2℃上昇シナリオ (RCP2.6)  
紫色の数字は4℃上昇シナリオ (RCP8.5) による予測